



川崎市立川崎病院
シンボルツリー



川崎市立川崎病院の基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。



認知症疾患医療センターを開設しました

～その人らしく穏やかに生活するために～

高齢化の進展とともに、認知症の患者さんも多くなっています。今や誰もが関わる身近な病気とされていますが、一方で早期の段階で適切な予防や治療を行えば発症を防ぐことや遅らせることもできるとされています。

当院では、「各診療科との連携」・「多職種による支援」・「充実した医療機器」・「症状に合わせた病床」・「合併症に対する救急医療提供体制」などの強みを生かし認知症に関する不安にお答えしていきます。

多職種チームでサポート



ステップ1

電話予約

早期受診が大事です まずはご相談ください

同じことを何度も
聞いたり話したりする

ぼーっとする
時間が増えた

料理、計算、仕事などに
ミスが増えた

穏やかな性格だったが
怒りっぽくなった



【完全予約制】 ☎044-233-5521 受付時間平日8:30~17:00

★認知症疾患医療センター／もの忘れ相談室へのお問い合わせと
お伝えください

※もの忘れ外来初回診療でお越しの際には紹介状をお持ちください。
紹介状をお持ちいただかない場合、別途料金がかかります。

ステップ2

もの忘れ外来

担当医師が、問診や診察を行い、
必要な検査の予約を行います。

患者さんが安心して話せる環境
作りを大切にしています



認知症疾患医療センター室長・内科医長

きたその ひさお
北園 久雄

- 日本内科学会認定内科医
- 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
- 日本認知症学会専門医
- 日本認知症予防学会専門医
- 認知症サポート医

認知症疾患医療センターについて

ステップ3

治療

①治療で良くなる認知症

正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、てんかん、うつ病、甲状腺機能低下症、ビタミン欠乏などがあります。

早期に発見し治療することで、改善が見込まれます。

②薬の影響によるもの

睡眠薬、抗不安薬などが原因でもの忘れになることがあります。
薬剤の調整で改善が見込まれます。

③いわゆる”認知症”【①②を鑑別した上で診断します】

アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側型認知症などがあります。症状の進行を少しでも遅らせたり、穏やかに過ごせるように、それぞれに適した薬剤調整を行い、“その人らしく過ごせる”ためのアドバイスをさせていただきます。

認知症と判断された場合は、かかりつけ医と連携して経過を診させていただきます。かかりつけ医がない場合、連携していただける医療機関をご紹介します。

総合的なサポート体制

認知症看護認定看護師

当院には、認知症を専門とする「認知症看護認定看護師」がいます。

患者さんやご家族に対して、体調やお薬、認知症状への対応など総合的な支援をしています。



もの忘れ相談(お気軽にご連絡ください。)

もの忘れ相談室では、受診時以外でも、下記の相談をお受けしています。
044-233-5521 受付時間平日8:30~17:00
認知症疾患医療センター／もの忘れ相談室

- 介護保険など制度に関する相談
- 医療費・生活費など経済的な相談
- 生活上の心配事など

パーキンソン病と治療法（DBS）

パーキンソン病とは？

パーキンソン病は、中脳の黒質にあるドパミン神経細胞がこわれて、ドパミンという神経伝達物質が不足して発症する病気です。ドパミンが減ると、体を動かすための指令システムのバランスが崩れてしまい、体を動かしにくくなったり、ふるえが起こりやすくなったりするなど様々な運動障害があらわれます。



高齢になるほど発症の割合が増えますが、年齢のせいや認知症と混同されることがありますので、早期の受診が大切となります。

パーキンソン病の主な症状

運動症状

動きが少なくなる（無動）、震えがでる（振戦）、筋肉がこわばる（筋強剛）、安定した姿勢を保てない（姿勢保持障害）などがあります。

非運動症状

便秘や頻尿、嗅覚障害、起立性低血圧（立ちくらみ）、発汗障害、性機能障害、認知機能障害、睡眠障害、幻覚などがあります。

パーキンソン病の治療は？

パーキンソン病の治療には薬物療法、リハビリテーション、手術療法があり、必要に応じてこれらを組み合わせていきます。

当院では、薬物療法の他に有効な手術療法として深部脳刺激療法（DBS）を行っています。DBSはパーキンソン病、ジストニア、本態性振戦に対し2000年4月より保険適応となった治療で、世界中で14万人以上の患者が使用しています。

この療法は目的とした脳の部位に電極を挿入し、胸元に入れたIPG（ペースメーカーのような刺激装置）から運動機能に関係する脳に刺激を送ることで症状を改善します。脳に傷をつけるわけではありません。

この療法は病気を根治するものではありませんが、薬物が十分効かない時間（ウェアリング・オフ）をなくし、治療によって生じるジスキネジア（体がうねうねと動く現象）の軽減にきわめて有効とされています。



神経内科（北園・布施）、脳外科（片山）にお尋ね下さい。

【発行元】 令和4年3月2日発行（第44号）

発行責任者：岡 正／編集：広報部会

事務局：川崎市立川崎病院庶務課 川崎市川崎区新川通12-1 電話：044-233-5521

<http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/>